

e-Learning Newsletter



contents

- ◆ 生成AIがひらく大学教育の新しい学びのかたち
- ◆ 動画コンテンツ公開！
「生成AI利用時における著作権侵害を防ぐために」

Information

- ◎eALPSメンテナンス情報発信中！e-Learningセンター公式X
- ◎「eALPSレベルアップコース（職員向け）」開設

今号は、活用機会が増加している生成AIを取り上げ、学びの在り方の変化をお伝えします。

裏面では、生成AI利用時の著作権侵害に関する動画公開をご案内しています。また、e-Learningセンターからの情報発信をしている公式Xや、職員の皆さま向けのeALPSに関する情報をまとめているコースの紹介をしています。

生成AIがひらく大学教育の新しい学びのかたち

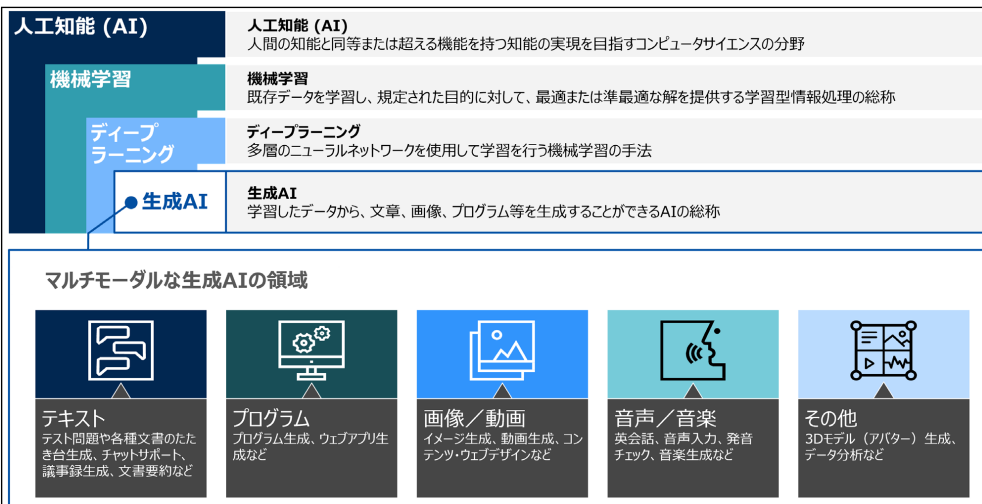
近年、「生成AI（Generative AI）」という言葉を目にする機会が急速に増えています。生成AIとは、人の指示に応じて文章や要約、翻訳、画像などを自動で作り出す技術であり、近年のAIの進化によって、私たちが日常的に使う検索エンジンや文書作成ツールにも搭載されるようになってきました。こうした生成AIは、教育の分野においても、教材づくりや授業設計、学生支援の在り方を変えつつあります。

信州大学では、学習管理シス

テム（LMS）であるeALPSを通じて多くの授業が運営されています。eALPS自体が生成AI機能を備えているわけではありませんが、eALPSに蓄積された学習データや学生の提出物を、外部の生成AIツールと組み合わせることで、教育改善に生かすことができます。たとえば、eALPSからエクスポートしたレポートをAIで要約し、学生の理解傾向や共通の課題を把握することができます。また、小テスト結果をAIに統計的に整理させることで、授業全体の理解度を可視化し、翌年度の授業設計に反映することも可能です。さらに、学生のコментарをAIが自動分類して提示すれば、フィードバックの傾向を短時間で確認することもできます。このように、eALPSと生成AIを「連携的に活用する」発想が、教員の働き方と学びの質の双方に新しい価値を生み出します。

一方で、生成AIを利用する際には、いくつかの注意が必要です。AIが生成する文章や画像には既存の著作物をもとにした内容が含まれることがあり、著作権を侵害するおそれがあります。また、学生の個人情報や学習データを外部サービスに入力する場合は、情報管理上のリスクが伴います。これらを防ぐためには、大学の情報セキュリティ方針や知的財産に関する規定を確認し、信頼できる環境で利用することが欠かせません。AIが提示する内容を鵜呑みにせず、人間の判断で検証する姿勢も求められます。

e-Learningセンターでは、生成AIの個別利用に関する技術的な問い合わせには対応していませんが、eALPSを基盤としたICT活用教育の推進を引き続き支援していきます。AIは決して教員に代わるものではなく、教育を支える“パートナー”として位置づけることが重要です。なお、本稿も生成AIの協力を得て短時間でドラフトを作成し、加筆修正を重ねて完成させたものです。こうしたAIとの協働を通じて、教員一人ひとりが創造的で効率的な教育実践を展開し、学生にとってもより深い学びを実現する環境が整っていくことを期待しています。



生成AIとは(文部科学省 2024)

動画コンテンツ公開！

「生成AI利用時における著作権侵害を防ぐために ～信州大学教職員も知っておくべき問い～」

生成AIの利用が活発になり、講義資料の作成・研究発表・学内外への広報活動などに、生成AIを利用する機会が増えてきています。生成AIの作成物を利用の際には、意図せず著作権等の侵害や不当利用をしてしまう恐れがあることを知っておかなくてはなりません。そこで、学術研究・産学官連携推進機構の野田慶司先生にご協力いただき、知的財産の侵害を危惧する観点から、生成AI利用時における留意点や自分の制作物との権利の違いに関する動画コンテンツ作成しました。

動画コンテンツでは、生成AI活用の際に著作権侵害を防ぐための基本的な考え方や注意点を伝えています。また、生成AI利用時の留意点、著作権の所在、著作権侵害をしてしまった場合の責任の所在など、Q&A形式で説明しています。

動画コンテンツは、eALPS教職員サイト「e-Learningと著作権」コースにて公開しています。ぜひ、ご活用ください。



野田慶司先生

まとめ：生成AIと著作権の基本姿勢

- 著作権法の本質は「禁止」ではなく「バランス」
→ 作者の権利を守りつつ、文化を発展させることが目的
 - 信州大学で生成AIを利用するときの3原則
 - ① 生成AIの出力をそのまま使わない（自分の言葉で再構成）
 - ② 出典・権利関係を必ず確認する（規約・クレジット・利用範囲）
 - ③ 人間の判断を介在させる（生成AIは「考える補助」）
 - 生成AI利用は透明性が重要（利用した場合は明示する）
 - 生成AIを恐れず、盲信せず、「人が主役」の活用を
- 「便利さの裏には責任がある」ことを常に意識しましょう

14

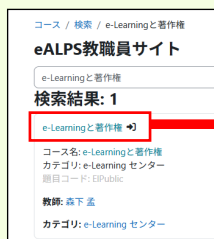
動画内資料（抜粋）

動画を視聴するには・・・

⇒eALPS教職員サイト「e-Learningと著作権」コースへ
自己登録してください。

こちらからもアクセス
できます

- 1.ポータルサイトACSUにログイン
- 2.【eALPS教職員サイト】をクリック
- 3.「e-Learningと著作権」を検索
- 4.コース名をクリック
- 5.【私を登録する】をクリック



コーストップページ画面

野田先生へのお問い合わせは、こちらのe-mailアドレスまで keishinoda@shinshu-u.ac.jp

Information

◎eALPSメンテナンス情報発信中！

e-Learningセンター公式X <https://x.com/eALPS>

e-Learningセンター公式Xでは、eALPSのメンテナンス日時や、メンテナンス中の利用できない機能などについてお知らせを発信しています。教職員皆さま・各部門の公式アカウントからのフォローをお待ちしています。

◎「eALPSレベルアップコース（職員向け）」開設

「eALPSレベルアップコース（職員向け）」では、職員の皆さまに向けて、eALPSのシステム構成や各種データとの連携のほか、基本的な機能や操作方法を紹介しています。担当の部署に関わらず、実務でeALPSを利用している皆さまへの情報提供をしています。

eALPS教職員サイト「eALPSレベルアップコース(職員向け)」

<https://fdsd.ealps.shinshu-u.ac.jp/fdsd/course/view.php?id=38>

【私を登録する】をクリックしてください。



e-Learning Newsletter 2025年11月号 No.51 発行：2025年11月

発行・編集：学務部学務課 e-Learningセンター

e-mail: elearning@shinshu-u.ac.jp

公式X：<https://x.com/eALPS>